

---

# だって夏だからさ

きなこ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

だつて夏だからさ

### 【Nコード】

N9112L

### 【作者名】

きなこ

### 【あらすじ】

部長に怒られた部員2名

寒いくらいの車内から開放されると、今度は痛いくらいの紫外線と熱風に襲われた。

「暑い・・・・・・・・・・・・・・・・」

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

「暑い暑い暑い暑い暑い。」

「暑いとも言えなくしてやろうか。」

「ごめんなさい。」

だって、こんなのありえない。天気予報では今日の予想最高気温は32 だった。そんな気温で人類は生存していけるのだろうか。

少なくとも私の生存確率は限りなく低くなるはずだ。夏って恐ろしい。

「かき氷が食べたい。」

「・・・・・・・・・・・・・・・・いいか、お前。世界には気温50 の中で頑張ってる方たちもいるんだ。そんな皆さんになんて言い訳するんだ。」

わずか32 でかき氷を食べてしまいましたなんてお前言えるのか。

」

「胸を張って言える。」

「・・・・・・・・・・・・・・・・そうだな。俺も言える。」

暑さで私たち2人も頭がおかしくなってしまったようだ。そう、頭がおかしくなったんだあの鬼部長も。この暑さの中隣町まで昼食買いに行けなんて狂ってるジーザス！

「お前さ、いい加減うるせえよ。思ったこと口に出てるから。暑苦しいから。湿度30%アップだから。」

「ごめんなさい。」

そんな事言われても、もうそろそろ意識も朦朧としてきたからしょうがない。湿度だってこれ以上上がれないって言ってる。ほら、湿度さんがもう限界だって言ってるよ。

「だからうるせえよ！」

「すみません！」

ようやくたどり着いたコンビニで私たちは6人分の部員の冷やし素麺を買った。部長にはカレーライスを買った。（気持ち悪くなって吐いてしまえばいい！！）

「でもさ、あれだよな。」

「ん？」

「近くのコンビニに行ってもばれなかったよね。」

「あー。……………夏ってそういう季節だよね。」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9112/>

---

だって夏だからさ

2010年10月14日18時00分発行